解　答

1 (1) 壇ノ浦　(2) 守護　(3) 征夷大将軍
2 (1) 奉公　(2) 封建社会
3 (1) 執権　(2) 後鳥羽
(3) 六波羅探題　(4) 御成敗式目
4 (1) 浄土宗　(2) 一遍　(3) 軍記物
5 (1) 北条時宗　(2) マルコ＝ポーロ
(3) 弘安の役　(4) (永仁の) 徳政令
6 (1) 建武の新政　(2) 北朝
7 (1) 倭寇　(2) 15
8 (1) 二毛作　(2) 酒屋　(3) 加賀の一向一揆
9 (1) 京都　(2) 下剋上
10 (1) 書院造　(2) 雪舟

解　説

1 (1) 平氏の天下は，1167年に**平清盛**が**太政大臣**になったときからかぞえて，わずか18年にすぎなかった。

参考　**平氏が滅亡をはやめた原因**

①平氏はもともと，院や貴族に不満をもつ諸国の武士に支持されて政権を握ったのだが，平氏自身がやがて貴族化したため武士の期待を裏切り，その支持と信頼を失った。

②**平氏のおごり高ぶったふるまい**は，院・貴族・寺社に強い反感を抱かせた。「平氏にあらずんば人にあらず」。

2 (1) 将軍は，御家人の領地の権利を認め，さらに功績があれば新しい領地をあたえ，また守護・地頭などに命じた。これを**御恩**という。一方，将軍からの御恩に対して，御家人は軍事などの義務を負い，戦いには将軍のため命をなげだして働くなど，忠誠をつくした。これが**奉公**である。

(2) 封建制度は，最初は武士のあいだだけに限られていたが，武家政治の発展とともに，武士以外の人々のあいだにもしみこみ，やがて江戸時代のころには，社会全体が封建社会としてととのえられる。

参考　**封建制度**

中国の周の時代の政治からおこったことばで，**封**は土地を分けあたえること，**建**は諸侯を建てるという意味である。

3 (1) 執権政治は，1203年の**北条時政**にはじまり，3代執権**泰時**と5代執権**時頼**のころにさかえた。

参考　**源氏の滅亡**

頼朝の死後，子の**頼家**が将軍となったが北条氏に殺され，ついで将軍となった頼家の弟の**実朝**も，おいの**公暁**に殺された(1219年)。源氏の正統はわずか三代，30年たらずでほろんだのである。

(2) 乱後，後鳥羽上皇は隠岐(島根県)に流された。また，幕府は京都に六波羅探題をおいて朝廷を監視するとともに，**多くの荘園を朝廷方から取り上げたので，朝廷方の力は急に弱まり幕府政治が確立**，その力が西国にものびて，全国を支配する体制ができあがった。

4 (1) 平安時代末期から鎌倉時代初期には戦乱がつづき，貴族がおとろえて武士が進出するという大変革の時期であった。そのため社会不安が強まり，人々は宗教にすがろうとした。旧仏教は難しく貴族本位の考えであったため，こうした要求にこたえることはできず，仏教の新しい宗派がおこった。

(3) 鎌倉時代の文学を代表するものは，武士を主人公としてその生活や戦乱のようすを力強い文章で書いた**軍記物**である。軍記物としては「**保元物語**」「**平治物語**」「**源平盛衰記**」などがあるが，とくに平氏の栄えと滅亡をえがいた「**平家物語**」はその代表作とされ，盲目の琵琶法師によって広められて人々に親しまれた。

5 (2) イタリアのベネチアの商人**マルコ＝ポーロ**は，13世紀後半に元の都**大都**をおとずれ，帰国後，「**東方見聞録**」をあらわして，アジアのようすをヨーロッパに紹介した。

参考　**東方見聞録**(一部)

ジパング(日本)は大陸から1500マイルのところにある島国である。住民は色白く，文化的で名誉を重んずる。**黄金がたいへんゆたか**で，国王の宮殿は世にもまれな豪華なものであり，屋根全体が黄金でおおわれ，道路もへやも窓も，すべて黄金でかざられている。

〔解説〕東方見聞録は，日本のことをジパングとよび，ヨーロッパ人の好奇心をさらった。

6 総合問題　学習マニュアル参照

7 (2) 沖縄では，15世紀の中ごろに**尚氏**によって琉球王国がつくられた。その商船は，東南アジアの香料などを日本や朝鮮にもたらす**中継貿易**に活躍した。

8 (2) **土倉**とは，**鎌倉～室町時代にさかえた質屋**で，質に入れた品物をしまっておく大きな倉を持っていたことから，この名がおこった。**酒屋**とは，室町時代の酒の製造業者で，高利貸をかねた。

(3) 応仁の乱のころから，**浄土真宗**(一向宗)が農民のあいだで広まり，これを信ずる土着の武士や農民が守護などの支配者に反抗するようになった。これを**一向一揆**という。加賀(石川県)の一向一揆は，1488年より約100年間も加賀の自治をおこなった。

解　答

1 (1) イ　(2) 征夷大将軍
(3) A 侍所　B 六波羅探題
C 守護　D 地頭
(4) 法律名：御成敗式目　人物：北条泰時

2 (1) ① フビライ=ハン　② 元寇
(2) マルコ=ポーロ　(3) 北条時宗　(4) ア

3 (1) ① 1333　② 後醍醐天皇　③ 足利尊氏
(2) 建武の新政　(3) 北朝：イ　南朝：オ
(4) イ

4 (1) 金閣　(2) 人物：足利義政　戦乱：応仁の乱
(3) 下剋上　(4) お伽草子

解　説

1 (1) **壇ノ浦**は，現在の山口県下関市にある。

(2) 平安初期に蝦夷を討つために臨時におかれた官職で，**坂上田村麻呂**らが任命されている。蝦夷との戦いの終わったのちなくなっていたが，1184年に**源義仲**が，ついで1192年に**源頼朝**が任命されたときには，蝦夷を討つという意味はなくなり，武士で天下を支配する者という意味になった。将軍はその略称。

(3) 守護・地頭は1185年におかれた。

ミスポイント

六波羅探題は，1221年の承久の乱後に京都におかれた。朝廷の監視・西国の御家人の統率を行った。

(4) 1232年，執権**北条泰時**は，武士の社会の習慣や，源頼朝以来のしきたりをまとめ，**御成敗式目**（貞永式目）を制定した。御成敗式目は，**51か条**から成り，簡単で実用的なのが特色である。そののち，必要に応じて条文が追加（**式目追加**）され，長く武士の手本となった。

2 **フビライ**は日本に使いを送り，元の属国になることを求めた。ときの執権**北条時宗**は，フビライの要求をことわったので，1274年，**元と高麗の大軍は対馬・壱岐をおそい，博多湾にも攻めこんだ。**西国の御家人は元軍とよく戦ったが，元軍の集団戦法や火薬に苦しめられた。たまたま**暴風雨がおこって元の軍船の多くが沈み，元軍は退いた**（文永の役）。その後も元はわが国を征服する計画をすてず，1281年に再び北九州に来襲した。幕府は防戦の準備をととのえていたので元軍の上陸をはばみ，**再び暴風雨がおこったため，元軍は退いた**（弘安の役）。

参　考　神国思想

元寇にさいして２度とも暴風雨が吹いたので，これは日本が神国だから神風が吹いたのだという考えがおこった。以後，わが国は神によって守られているという**神国思想**がひろまった。

3 (2) 武士の力のおかげで鎌倉幕府を倒すことができたのに，**新政の政府は，公家の方に恩賞を多くあたえたので，不満を持つ武士が多くなった。**また，天皇は皇居や役所をつくろうとし，新しい税を全国の武士にかけた。そのため武士の不満はいよいよ強くなり，再び武家政治の復活を期待するようになった。

(3) **京都**にはいった**足利尊氏**は光明天皇をむかえ，1338年には**征夷大将軍**に任じられて幕府をひらいた。**後醍醐天皇**は吉野（奈良県）にのがれ，そこに皇居をおいて天皇政治を続けた。**京都の朝廷を北朝，吉野の朝廷を南朝といい，このちの約60年間にわたり，両朝が対立し，**武士がそれぞれの朝廷について争った。この時代を**南北朝時代**という。

1392年，尊氏の孫の義満のとき，南北朝の和解が成立し，朝廷は一つとなった。

4 (1) 14世紀末に足利義満は，**京都の北山に別荘の金閣**を建てた。このころ栄えた文化を，**北山文化**という。金閣は1950年に焼失，1955年に再建された。

(2) 義満の死後，守護大名の力がますます強まり，たがいに争うようになった。特に細川氏と山名氏**とは将軍や管領家のあとつぎ問題をめぐって対立した。**応仁の乱は，細川氏を中心とする東軍16万と山名氏を中心とする西軍11万に分かれ，京都を中心に11年間も続いた。**応仁の乱の意義**として，次のようなことがあげられる。

①公家や僧のなかには，戦乱をさけて地方の大名をたよっていくものが多くなり，これによって中央の文化が地方にひろまった。

②幕府の権威は地におち，また，朝廷・公家・寺社などの旧勢力もほとんど荘園を失って没落した。

③世は家がらよりも**実力本位の戦国時代**にはいった。

参　考　書院造

東山文化の時代におこった住宅様式で，現在の住宅建築のもとを**となった。**玄関と書院があり，たたみをしき，障子やふすまで区切って，書院には書院窓，床の間，違棚を設けた。**銀閣**や，そのそばの**東求堂**は書院造や茶室建築のもっとも古い形を伝える。

(3) 守護大名が家臣の守護代に殺されたり，その守護代も家臣に殺されたりした。事例は次のとおり。

・細川氏→（家臣）三好氏→（家臣）松永氏
・山内上杉氏→（守護代）上杉謙信

(4) 「**一寸法師**」「**浦島太郎**」などの絵入りの短編物語で，民衆のあいだで愛読された。その中には，当時地位を高めつつあった民衆の夢がおりこまれている。